

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2277102444		
法人名	医療法人社団 和恵会		
事業所名	グループホーム入野やわらの家		
所在地 (電話番号)	浜松市西区入野等町6410	(電話) 053-440-3977	

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年12月9日		

【情報提供票より】(20年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 12.7人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	<u>新築</u> /改築
建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有/ <u>無</u>
食材料費	朝食	400 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	和恵会記念病院 野寺歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

二階建ての建物は一階がグループホーム、二階がデイサービスセンターで、グループホームの玄関を入ると、中は江戸時代の下町をイメージした造りになっており、穏やかな落ち着いた雰囲気にも包まれている。運営法人は老人性認知症疾患療養病棟を持ち、地域に根差した実践に取り組んでいる。利用者は、地域の理解を得て、自治会に加入したり、老人クラブの会員になるなど活動の場を広げている。管理者や職員は、利用者一人ひとりに向き合い、誕生日にはその人らしい過ごし方を計画して提供するなど、それぞれの思いや希望に沿った支援を行っている。実践目標を定め、前向きに取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>委員会を設け、委員が評価結果を受けて改善項目の検討を行い、職員全員で改善に向けて取り組んだ。その結果、行政との事例検討会の実施や避難訓練への地域住民への参加呼びかけを行った。またターミナルケアについても、家族や利用者の意向を尊重し対応していくことを職員間で話し合った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>委員会で各項目を検討しまとめ、全職員で自己評価を行なった。その結果、職員が評価の意義をより一層理解し、日頃のケアを振り返る良い機会として取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、自治会役員、民生委員、老人クラブ役員、介護相談員、家族、行政担当者、職員などが参加し定期的に開催されている。ホームでの日頃の活動、外部評価の結果や改善に向けた取り組みなどを報告し、参加者からの意見を伺い、地域や行政から情報を提供していただきサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪する際には管理者や職員が声かけし、家族が意見や苦情を言い易い雰囲気を作っている。また、毎年家族に対し満足度アンケート調査を実施したり、意見箱を設置し、得られた意見を運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者は、自治会や老人クラブに加入し、住民としてお祭りや運動会など地域の行事に参加している。老人クラブでの交流の結果、会員のホームへの訪問や、管理者が老人クラブの定例会へ出席し、認知症の話をするなど交流が深まっている。また、ホームで開催する行事には、地域の人達の参加も多い。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「親切・丁寧・平等」を基本とし、グループホーム独自の理念を「利用者様の残された能力を見つけ出す・利用者様の誇りの尊重・快適な空間の提供」と定めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議で理念を確認し合い、理念に沿ったケアができてきているか、振り返りながら、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、それぞれが自治会や老人クラブに加入し、地域のお祭りや運動会に参加している。ホームでは、中学生の福祉体験を受け入れたり、管理者が、老人クラブで認知症の話をしている。また、地域の防災訓練にも参加している。		利用者が老人クラブの活動に参加することを支援し、かるた会や料理作りを一緒に行うなど、地域の同年代の方々との交流が広がっている。
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、サービス評価の意義を理解し、年度当初に委員を決め、委員会で検討し、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価結果についても、改善に向けた取り組みが行われ、成果を出している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会役員、民生委員、老人クラブ役員、介護相談員、家族、行政担当者、職員などが参加し、2か月に1度開催している。ホームの活動や評価結果などを報告し、意見交換を行っている。出された意見が、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者に働きかけ、行政とホームの単独の話し合いを初めて行った。「生活歴を取り入れる工夫を」と助言をいただき、センター方式を利用し実践している。今後も事例検討会を行っていくことになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪する際に、利用者の状況を伝えている。ホーム便りを3か月に1度発行し、ホームでの暮らしぶりや行事の様子、新規採用職員の紹介など、多くの写真を掲載して報告している。預かり金については、毎月金銭出納帳のコピーと領収書を郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年6月に、利用者家族に対し満足度アンケートを実施して、結果を報告し、要望等に対応している。意見箱の設置や、家族会の親睦昼食会の開催など、意見や要望を出してもらえる機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職があった時は、フロアーの職員が新しい職員にきちんと引き継ぎを行い、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や、ホームの研修計画があり、職員は経験などに応じ研修を受けている。また、市主催の研修会やグループホーム協会の研修情報を職員に伝え、希望する研修に参加できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の企画する研修会に参加し、ホーム同士が相互訪問を行い、交流や研修を行っている。また、実践者研修での受け入れ施設を引き受ける等、ネットワーク作りに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が利用相談に来る場合が多く、家族の希望を聞いたり、本人と一緒に来てもらい、納得するまで話し合いを行っている。併設のデイサービスを体験して、利用につなげることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、調理や洗濯物の干し方、掃除の仕方など経験豊富な先輩である利用者に教えられることが多い。介護に関わる上では、言葉づかいや清潔感に配慮し、喜怒哀楽を共にして支え合いながら過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味、嗜好などが解る「生活史シート」を家族に記入してもらい、それを基にケアにつなげている。日々の生活の中で、例えば、毎日お経をあげている方が不安そうな様子をしていた時は、お経と一緒に唱えるなど、個々の対応を通して、その表情や反応から本人の思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の情報シートを効果的に活用している。家族とは、月1回は話す機会を作り、希望、意見を記入している。担当職員は、日々のケアの状況をケース記録としてパソコンに入力しており、介護計画に反映している。		センター方式とパソコンを効果的に活用している。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居中に骨折した方が、退院して再入居した場合は介護計画の見直しを行う等、変化が生じた場合は随時見直しを行っている。変化が見られなくても、3ヶ月に1度の見直しを実施している。特にモニタリングに工夫が見られ、次の計画策定に引き継がれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外食要望があれば個別に対応したり、誕生日には、その方の意向を大切に、思い出に残るような外出支援を行っている。法人グループの利点である各種サービス等の情報を提供し、家族の安心につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて直に受診できることや、認知症の専門医と連携をとっていることが家族の安心につながっている。かかりつけ医に、ホームの協力医療機関院を指定する家族が多く、協力医として家族の要望に応じている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を定め、入居時に利用者・家族に説明したり、機能低下が進んだ場合、より具体的に話し合っている。浴槽等ホームの設備にはケアの限界があり、法人グループの医療体制等の利点を生かした終末期体制も視野に置いている。	○	「やわらで看取ってほしいという要望が出てきた時は、その人の尊厳を守り続けていく立場で対応していきたい」という考えを持っている。その人の状態と家族の意向、ホーム側の体制等、十分話し合いをされたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を守るケアを常に意識し、やさしい言葉かけや食事時の食べこぼしをさりげなく拭く支援の様子が見られた。個人情報には特に配慮し、写真を使用する際には、家族と承諾書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を摂らない場合も、様子を見ながら無理強いすることなく、時間を置くなど、それぞれのペースを大切にしている。また、食事づくり当番を予め決めず、その日に希望をとるなど、利用者が自分で決める場面を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、毎食ホームで作っている。献立は、利用者の好みや希望で、新聞のチラシや本から見つけることもある。職員と一緒に食材の買い物に出かけ、調理、盛りつけ、配膳、片付け等楽しんで行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により、毎日、昼夜問わず入浴できる。広々とした浴室で、ゆったりとした入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を記録した生活史シートや、残存能力を活かし、園芸、洗濯、食事作り等の役割を分担している。また、買い物、散歩、カラオケ等利用者の希望に沿った楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへ買い物に出かけたり、ユニット単位または個別に、外食や散歩等の外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、研修で身体拘束をしないケアを習得し、「日中は玄関の鍵は掛けない」を徹底している。また、家族にも鍵をかけない暮らしについて説明している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施している。自治会が主催する防災訓練には、地域住民として参加している。運営推進会議で、災害に対する地域との協力について検討され、ホームで行う避難訓練に地域住民の参加が得られることになった。	○	民生委員活動の中に「災害時一人も見逃さない運動」があり、地域の要支援者の把握と、その方たちを支援する体制づくりが進められている。民生委員への支援依頼等、運営推進会議で取り上げられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録し、一人ひとりの健康状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、個室は江戸時代の下町をイメージした造りで、廊下は露地を歩く感覚で、親しみやすい空間となっている。居間は南側に面し、ガラス張りで明るく、居心地良い空間作りを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にトイレが設備され、プライバシーが保たれている。使い慣れた好みの物や手作り作品、仏壇等の持ち込みもあり、個々に合った居室作りを支援している。		